

2024年度 事業報告書

事業名

盲導犬事業〈公1〉

社会適応推進事業〈公2〉

管 理 部 門 〈法人会計〉

自：2024年 4月 1日

至：2025年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

(2024年4月1日 ～ 2025年3月31日)

■ 盲導犬の育成・貸与事業

1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

1) 視覚障がい者への盲導犬貸与は、目標11頭に対し8頭を貸与した。

・貸与地域：道内2名（新規1名・代替1名）・道外6名（代替2名秋田県、代替1名岩手県、代替1名宮城県、代替1名新潟県、代替1名長野県）

・盲導犬実働数62頭（年度末時点・前年比△6頭）

2) 2024年度の訓練犬18頭に対して、9頭が盲導犬の作業における訓練基準認定目標を達成した。2023年度から導入した2次適性評価により、稟性面の問題によるキャリアチェンジの頭数が減り、効率よく訓練を実施することができしており、マッチングの効率も上がっている。

	訓練犬頭数	マッチング頭数
2022年度末	10頭	4頭
2023年度末	9頭	9頭
2024年度末	9頭	8頭

3) 盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化に取り組んだ。

・盲導犬のマナーコートについては、着用時に後ろ側へずれるという課題があったため、改良を加えた上で頒布を開始した。

・75歳以上のユーザー14名に対してフォローアップを実施した。

4) 訓練犬の日常管理の充実を図った。

・手入れ、運動、シャンプーなど管理面を充実させ、ハズバンドリートレーニングを早期から導入して扱いやすい犬を目指した。なお、ハズバンドリート

レーニングを導入した訓練犬は、2025年4月以降に盲導犬となるため、盲導犬となった後に評価を実施して、同トレーニングの効果を検証する。

5) 訓練担当者を新しく2名配属し、訓練士養成を行った。

2. 繁殖に関すること

1) 出産頭数は60～75頭（出産件数15腹前後）の計画に対して53頭であった。

出産件数	出産頭数	委託頭数	譲渡頭数	譲受頭数
13腹	53頭	51頭	4頭	2頭

- ・ 出産頭数は死産や出産後死亡犬、育仔中にCCとなった犬を除く
- ・ () は委託後に死亡した頭数
- ・ $53(\text{出産}) - 4(\text{他施設譲渡}) + 2(\text{他施設からの譲受}) = 51(\text{委託})$
- ・ 他施設への譲渡および他協会からの譲受は、繁殖協力や子返しのため実施したものである。

2) 繁殖犬として新たに6頭を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努めた。

- ・ 繁殖犬導入 ラブラドル6頭（雄1頭、雌5頭）
- ・ 現繁殖犬数 オス 14頭 メス 38頭

3) パピー犬51頭に対してGD-Bartテストを実施し、その結果のデータを整理した。データは、アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク (AGBN) に提出していく。

4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けて、年間繁殖計画及び繁殖犬飼育委託体制について説明会を実施して、理解促進を図った。

- ・ 12/8開催 参加数 オス犬5家庭 メス犬16家庭

5) 遺伝子病検査について全頭検査（毎年の委託頭数50～55頭）ができる体制を目指したが目標達成には至らなかった。引き続き次年度の課題とする。

- ・ 33頭実施済み

6) 出産や繁殖評価の流れについて、効果・効率を高める取り組みを行った。

- ・交配や出産業務量の分散化を目指し、出産を通年性とするシステムについて指導部内で検討を行った。2025年度はこれまで出産休止期であった時期に1～2体の出産を行って検証していく予定。

- ・繁殖犬を決定するまでにかかる評価の時間（評価回数や評価日数）を削減して効率化を図る取り組みを実施した。効率化した上でも適切な評価ができているかどうかについて、今後検証していく。

7) 繁殖担当者を新しく1名配属し、養成を行った。

3. パピーウォーキングに関すること

1) 2024年度訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を51頭委託した。

- ・2-(1)実務実績の表による。

2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を計画通りに実施した。

- ・委託終了までの間に、講習会を5回及び家庭訪問を3回実施して、パピーの飼育指導にあたった。（パピー講習会・委託式：52回実施、家庭訪問：148回実施）

3) ユーザーの下で盲導犬として安定した生活を送れるよう、トイレトレーニングの強化を図った。

- ・具体的には、①排泄間隔を長くする ②人工芝やトイレシートを排泄場所として条件付けすることを試みた。今後、犬舎に引き上げてから効果を検証する。

4. ケネル・老犬ホームに関すること

1) 老犬飼育委託家庭への定期訪問を行い、高齢犬の飼育環境を整えるアドバ

イスを行った。また、老犬来所の機会に犬の健康状態を把握し個々に合ったケアの充実を図った。

- ・老犬飼育委託者向けの「老犬通信」を3回発行し老犬に関する情報を提供した。

- ・引退頭数 19頭（繁殖犬を含む）

- ・死亡頭数 26頭

- ・年度末管理頭数 59頭

2) 引退犬飼育者向けの介護動画を作成した。次年度に公開する。

3) 引退繁殖犬ボランティアおよび老犬飼育委託ボランティアに対し、老犬の受け入れや介護に向けての準備などをテーマとした講習会を開催した。

- ・10月に開催し11家庭12名の参加があった。介護を始め老犬に関わる諸問題を共有することができた。

4) 新たに犬舎犬管理ボランティアの体制を整備し、ボランティア2名が活動中である。

5) 老犬ホームボランティアを1名採用し、4回の研修を行い、現在活動中である。

6) 新入職員1名を老犬ケネルに配属し、犬とボランティア活動への理解を深めると共に、老犬に関わる健康管理・飼育家庭訪問時のサポート業務などを担当させた。

5. 研修に関すること

1) 外部研修の活用により、職員のスキルアップに努めた。

①全国盲導犬施設連合会「加盟施設職員相互研修会」

- ・動物福祉に関する勉強会

会場：日本盲導犬協会 1名参加（4月12日）

- ・人材育成(訓練士・指導員)マネジメント研修会

1名オンライン参加（7月16日）

- ・パピープログラム担当者研修会

会場(主管)：当協会 3名参加（7月19日～20日）

- ・ユーザーと犬の防災研修会

5名オンライン参加（12月9日）

②日本ライトハウス「視覚障害リハビリテーション基礎講習会」

5名参加（7月24日～26日3名参加、8月21日～23日2名参加）

③日本ライトハウス「視覚障害者生活訓練等指導者養成課程」

1名参加（4月2日～9月27日）

④株式会社道銀総合研究所「道銀経営塾幹部育成コース」

4月～9月 1名参加、9月～2月 1名参加

⑤日本歩行訓練士会「フォローアップ研修会」

1名参加（10月11～14日）

⑥日本歩行訓練士会「冬季研修会」

2名参加（12月7日）

- 2）2024年度指導部新入職員5名に対して、職員としての基本知識やスキル習得の所内研修と配属部署での実務研修を実施した。

6. 犬具飼料等の頒布に関すること

- 1）盲導犬ユーザー、飼育委託ボランティアが購入する犬具について、卸業者からの仕入れにより標準価格の7割程度で頒布して費用負担の軽減に努めた。

- ・取扱数 犬具246件

2) 盲導犬ユーザー、生活訓練受講生を中心に歩行補助具・日常生活用具の情報提供及び頒布を行い、日常生活をサポートした。

- ・取扱数 用具32件

■ 普及啓発事業

1. 盲導犬の普及啓発に関すること

1) 視覚障害者向け盲導犬体験会を実施した。

- ・4名に盲導犬個別体験会を実施した。（旭川3名・洞爺湖町1名）
- ・生活訓練カリキュラムに盲導犬体験歩行を組み入れ、入所生6名に対して計11回実施した。その結果、1名から盲導犬の申込みがあった。

2) 視覚障がい者団体の行事等に参加し盲導犬歩行体験を実施した。

- ・秋田視覚障害者福祉協会わくわく文化祭（10月6日）
- ・北海道視覚支援学校学校祭（10月20日）
- ・札幌協ふれあいまつり（10月27日）
- ・視覚障がい者と晴眼者の会「紙ふうせん」例会（1月22日）
- ・視聴覚障がい者情報センター点字サークル（3月21日）

3) 白老町社会福祉協議会主催の講座「盲導犬について知ろう！」に、白老町在住の盲導犬ユーザーと共に講師として招かれ、視覚障がい・盲導犬・補助犬法についての啓発を行った。

4) 教育機関、福祉事業者、自治体等が実施する盲導犬講習会に職員を講師として派遣し、盲導犬や視覚障害について、正しい知識と理解を深めることを目的とした講習を行った。

- ・教育機関37件（幼稚園7/小学校13/中学校8/高校4/大学1/専門学校4）
- ・福祉事業者2件（富良野市社会福祉協議会・ツクイ札幌デｲｰﾋﾞｽとんでん）

5) 関係団体、商業施設、支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活

動を実施した。

- ・北海道日本ハムファイターズホームゲーム、北海道コンサドーレ札幌ホームゲーム、札幌コンサートホールKitara、動物愛護フェスティバル等63か所で啓発活動を実施した。

6) 協力者を対象として、2024ガイドドッグオープンデーを開催した。

- ・開催日：4月21日（日）10：00～15：00
- ・来場数：1,280名 ・ボランティア、職員数：131名
- ・取材：NHK、HBC、STV、UHB、北海道新聞
- ・寄付募金等：496,539円 ・グッズ頒布：335,700円 ・バザー等：227,342円

7) 個人を対象とした施設見学会を9回実施した。また、17団体の見学を受入れた。

- ・施設見学会

開催月：6月、7月、8月、10月、11月、12月、1月、2月、3月

参加数：計206名

- ・団体見学

参加数：17団体314名

8) 盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を製作・頒布して、盲導犬育成事業に対する理解と募金への協力に繋げた。

- ・新デザインのオリジナル商品3種を製作し、協会来所者や啓発イベントを中心に頒布した。（Tシャツ、ポーチ、マグカップ）
- ・頒布実績341件（協会来所者294件 啓発イベント47件）

9) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を年2回各20,000部発行した。

- ・第77号（7月16日発行）、 第78号（1月17日発行）

■ 調査研究事業

1. 調査・研究に関すること

1) A G B Nが取り組む期待育種価算出プログラムの精度向上に協力した。

・盲導犬事業 2-(3)の記載による。

■ その他事業

1. 財源確保に関すること

1) サポート会員の新規会員目標150名に対して、105件の新規申込を受けた。

また、既存サポート会員に対して計画的に継続支援依頼書を送付して、

1,717件の会員継続を受け付けた。

	全体	個人会員	法人会員
新規会員数	105件	102名	3社
継続会員数	1,717件	1,657名	60社
当年度会員数	1,822件	1,759名	63社

2) 募金箱の新規目標200か所に対して、115か所に設置した。

また、既設募金箱の定期訪問回収と設置者への送金の依頼、設置状況の確認を行う等、募金箱を適切に管理し、4,902か所からの募金入金があった。

	全体	札幌市	札幌市外	道外
新規設置数	115件	44件	58件	13件
除台数	212件	133件	61件	18件
総設置数	7,094件	3,521件	3,085件	488件

3) 街頭等での募金活動を実施し、財源の確保、盲導犬の啓発、協力者の拡大を図った。

・IKEUCHI GATE前 計12回実施

5月24・25日、6月28・29日、9月27・28日、10月25・26日、11月29・30日、

3月28・29日 各日：13:00～14:30

・帯広駅東側エスタ前広場

9月8日 10:00～12:00

4) 支援企業7社から協賛金を募り、ポスター型カレンダー5,500枚を制作して支援者等に広く配布し、継続支援を依頼した。

5) 遺贈寄付制度を推進する為、金融機関及び弁護士、行政書士等の関係機関へ随時情報提供を行った。

2. 関連団体との協力連携に関すること

日本盲人社会福祉施設協議会関係では、全国11施設の盲導犬年次報告書の取りまとめと警察庁、厚労省、マスコミ他全国関係機関への配布を行った。

全国盲導犬施設連合会関係では、理事会3回、運営委員会4回に出席した他、加盟施設職員相互研修会への参加と企画運営、盲導犬受け入れ全国調査(2025)の実態調査アンケートの実施に協力した。

北海道盲導犬ユーザーの会関係では、当協会を会場に総会が開催され運営に協力した。

3. その他

公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団令和6年度施設整備等助成金の交付決定を受け、在宅訓練訪問用車両1台を導入した。

- ・導入総事業費：1,949,228円
- ・助成金交付額：1,090,000円
- ・導入車両：軽自動車 三菱ekスペース

社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

(2024年4月1日 ～ 2025年3月31日)

1. 生活訓練の実施に関すること

- 1) 短期入所訓練を実施した。実施回数及び指導数は、目標10回、15～20名のところ12回開催し23名実施した。また、新規訓練希望者は目標5名に対し6名受け入れた。また、ケース会議については、すべての訓練において実施し、訓練達成度の確認及び評価と今後の計画を決定した。

(実績)

		訓練日程	訓練期間	受入人数				計
				札幌市内		道内		
				新規	継続	新規	継続	
上半期	1	4月1日～4月12日	2週間				2	2
	2	5月20日～5月31日	2週間	1	2			3
	3	6月10日～6月21日	2週間	1			1	2
	4	7月1日～7月12日	2週間			1	1	2
	5	7月22日～8月2日	2週間			2		2
	6	8月19日～8月30日	2週間				2	2
	7	9月9日～9月20日	2週間			1	1	2
下半期	8	9月30日～10月11日	2週間				2	2
	9	10月28日～11月8日	2週間				1	1
	10	1月13日～1月24日	2週間		1		1	2
	11	2月10日～2月21日	2週間				2	2
	12	3月10日～3月21日	2週間				1	1
			合計	2	3	4	14	23

- 2) 通所及び訪問による指導を行った。指導数は月平均5ケースであった。また、ケース会議を定期的の実施し、訓練生の状況把握と訓練方針の共有を行った。
- ※通所及び訪問による指導ケース数は、各受講者の訓練期間により変動するため、受講者数は月平均にて表示した。

- ・訪問訓練の状況

前年度から訓練継続 5ケース

期中訓練終了 2ケース（調理訓練1名、情報機器訓練1名）

期中訓練開始 1ケース（歩行訓練1名）

次年度へ継続 4ケース

・通所訓練の状況 未実施

※総括：生活訓練については、入所・訪問ともに計画通り実施することができた。

なお、今年度に新規で受け入れた方は全員、次の関係団体からの紹介によるものであった。（北海道札幌視覚支援学校、旭川盲学校、札幌市視聴覚障がい者情報センター、札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会）

今後もこれらの団体との関係を一層強化し、北海道内における連携をさらに深めていく必要がある。

2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

1) 当協会の盲導犬事業、生活訓練事業を啓発するために、道内4カ所にて「目の不自由な方のための相談会」を実施した。今年度の相談会は、従来のセミナー形式ではなく、個別相談・個別体験に重点を置いた形式で実施した。

・開催地域：名寄市（9月29日）、北見市（10月13日）、函館市（11月3日）、釧路市（11月24日）

・実施内容：盲導犬歩行体験、白杖紹介・体験、用具紹介、各種情報提供

2) 視覚障がい者・関係者からの相談に随時対応して、盲導犬事業及び生活訓練事業の利用者拡大に努めた。

・対面相談および電話相談件数 計423件

うち、札幌市外の対面相談数 計11件

3) 盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者を顕在化するため、視覚障害者団体等の行事に参加し、盲導犬および生活訓練に関する情報提供を行った。また、主催者の要請に応じてオンライン開催の運営に協力した。

- ・ J R P S アイフェスタ（旭川：9月1日）
- ・ 帯広盲導犬体験会（帯広：9月15日）
- ・ 北海道視覚障害者福祉連合会福祉大会（札幌：10月6日）
- ・ ロービジョンケア北海道（札幌市）

現地参加9回、ハイブリット参加1回 ※うち、オンライン開催の協力1回

- ・ ロービジョンケア旭川（旭川市）

ハイブリット参加1回、オンライン参加3回

- ・ ロービジョンケア十勝（帯広市）

現地参加4回、ハイブリット参加2回 ※うち、オンライン開催の協力5回

【参考】

・ 本項での主な視覚障害者団体：札幌市視覚障害者福祉協会、北海道視覚障害者福祉連合会等の各地の当事者団体及び札幌市視聴覚障がい者情報センター、視覚支援学校等の関係機関

・ 「ロービジョンケア北海道・旭川・十勝」とは、視覚障がい者やその家族、歩行訓練士、視能訓練士などの専門職が自由に意見交換や相談を行える場である。受障後間もない方の参加もあり、ピアカウンセリングの場としての役割も果たしている。

4) 視覚障がい当事者及び医療・福祉・教育等の関係者に向けて視覚障害リハビリテーションの普及啓発を目的に、「第3回ロービジョンケア講習会」を北海道眼科医会と共同で開催した。また、講習会の様子は、協会のYouTubeチ

チャンネルにて限定公開した。

- ・開催日 5月11日

- ・参加数 計76名

- ・講演内容 「視覚障害者の移動支援」

- ・YouTube再生数 計142回

5) ロービジョンケアを実施している旭川医科大学病院において、日常生活用具展示会及び相談会を計3回実施し、視覚障害リハビリテーションの普及啓発に取り組んだ。

6) 視覚障がい者の外出を支援し、地域との繋がりを深めるために、移動支援従事者や就労継続支援事業所の職員に対し、情報提供等のサポートを行った。

7) 生活訓練の再受講のきっかけづくりを目的に、生活訓練受講者等を対象とした「手引きの基本動作」動画を作成・公開した。また、生活訓練受講生の現状把握と的確な情報提供を図るため、生活訓練利用者名簿の整備にも着手した。

※総括：相談会については、これまで開催実績のなかった地域でも実施することで、関わりの薄かった医療機関や相談支援事業所、自治体などに協会の活動を知ってもらうきっかけとなった。相談対応では昨年度と同程度の対応を行い、当事者の生活向上のきっかけづくりに努めた。また、相談対応者の中からは入所訓練、訪問訓練を受講する方もおり、訓練受講の窓口としての役割も果たしている。生活訓練の啓発活動は、直接当事者へ関わるものが多いが、同時に当事者を支える地元団体等に協会を知ってもらう活動も積極的に行っている。これにより、地域で情報が不足がちな当事者が、協会を知るきっかけとなることを目指している。

管理部門 <法人会計>

(2024年4月1日 ～ 2025年3月31日)

1. 理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行った。

1) 理事会は、計3回開催した。

第51回理事会 6月10日 第52回理事会 11月22日 第53回理事会 3月6日

2) 評議員会は、計2回開催した。

第31回評議員会 6月10日 第32回評議員会 3月18日

3) 三役会、経営会議は13回開催した。

第1回経営会議 4月30日 第2回経営会議 5月21日 第3回経営会議 6月18日

第4回経営会議 7月25日 第5回経営会議 8月28日 第6回経営会議 9月19日

第7回経営会議 10月30日 第8回経営会議 11月26日 第9回経営会議 12月18日

第10回経営会議 1月29日 第11回経営会議 2月20日 臨時三役会 2月26日

第12回経営会議 3月26日

2. 施設整備関係

1) 訓練棟及び本棟の空調設備設置工事

・設置工事完了 8月

2) 訓練棟下方放出型自動消火装置の更新工事

・更新工事完了 10月

3) 訓練棟及び本棟の照明一部の更新工事

・次年度更新への向けた準備に着手した。

4) 本棟給湯ボイラー更新工事

・更新工事完了 2月

3. 施設に関すること

1) 施設所在地

北海道札幌市南区南30条西8丁目1-1

2) 施設の状況（敷地面積や建物の状況）

敷地面積 3306m²

本 棟 （構造等）耐火造地上3階 床面積442.16m² 延べ面積1100.88m²

（主設備）事務室・食堂・厨房・入所生室(5室)・宿直室

生活訓練室(2室)・浴室男女・手入れ室・ホール

訓練棟 （構造等）耐火造地上一部3階

床面積985.07m² 延べ面積1432.18m²

（主設備）指導員室・調理室・老犬ホーム・訓練犬室・治療室

犬の浴室・交配室・隔離室・ボランティア室

研修室(3室)・相談室

3) 職員の在籍状況

	常勤	パート	非常勤	備考
常務理事	1			
所 長	1			
事務部	総務・普及啓発	1		
	経理	5	1	
指導部	生活訓練	3		白杖指導員 2 名、生活指導員 1 名
	繁殖・パピー	4	1	非常勤者は月 4 日
	盲導犬訓練	5	1	指導員 3 名
	老犬・ケネル	2	2	非常勤者は夜間宿直業務 実働月 8 日
	訓練事務	1		
施設管理		1		
計		24	5	4

4) 盲導犬歩行指導員等の資格保有状況（他業務従事者含む）

資格名	保有者数	備考
盲導犬歩行指導員	5	
白杖歩行指導員	3	
生活訓練指導員	2	
愛玩動物看護師	1	
計	11	